

# 大正生まれの外国産樹木の森

—上伊那郡高遠町進徳の森を訪ねて—

## 1 はじめに

日本で見られる外国産樹木といえば、どのようなものを思い浮かべるでしょうか。

自宅の庭や近くの公園、街路樹などを見回してみると、ハナミズキやプラタナスなど数多くの外国産樹木が植えられています。また山の中でも、ヨーロッパ原産のドイツウヒや、北アメリカ原産のニセアカシアが生育しています。

しかし、こうした外国産の樹木が、県内各地で広く普及したのは戦後のことで、それ以前から育てられて大きくなっているものは、それほど多くはないようです。ところが上伊那郡高遠町には、大正初期に外国産の樹木を植栽した山林が、今でも大切に残されています。これらの樹木は、高遠町出身の中村弥六が植栽したとのことですが、さて中村弥六とはどのような人物だったのでしょうか。

## 2 中村弥六とは

中村弥六は安政元年（1854）、高遠藩の儒学者で藩校「進徳館」を創立させた中村元起の四男として、高遠町に生まれました。その後東京大学の前身である東京開成学校でドイツ語を学び、ドイツ林学の書を翻訳しているうちに森林学に興味を持ちました。そこでドイツ林学の勉強を思い立ち、明治12年（1879）に独力でドイツにわたりました。明治15年に帰国するまでの3年間に、林政学や森林経理学などドイツ近代林学を基礎から学び、「ドイツ国林学士」となって帰国しました。また留学中に信州産ニホンカラマツのヨーロッパ導入にも貢献しました。帰国後すぐに新設の東京山林学校（現在の東京大学農学部林学科）の初代教授となり、ドイツで学んだ知識をもとに人材の育成に励み、明治32年（1899）には林学博士の学位を日本で始めて授与されています。

昭和4年（1929）にこの世を去るまで、林業教育の整備や森林法の制定など、日本の林学や林政

に深く関わり、今では「近代林学の父」と呼ばれています。



図-1 進徳の森位置図（1：25000）

## 3 中村弥六と進徳の森

中村弥六が植えた森は現在「進徳の森」と呼ばれ、高遠町大字東高遠にある<sup>ホウザンジ</sup>峯山寺の裏にあります（図-1）。大正元年（1911）ごろ峯山寺の周辺が大雨により崩壊し、中村家の墓所も被害を受けました。これを知った中村弥六は、崩壊を止めるために独力で周辺の土地を購入し、当時珍しかった外国産の樹木を農林省林業試験場より数多く移植しました。その後この森は遺族が管理していましたが、昭和35年（1960）には高遠町に寄贈されました。高遠町では、この山林を藩校の進徳館にちなんで「進徳の森」と命名し、現在まで大切に保存しています。

## 4 現在の進徳の森

峯山寺本堂の南に広がる墓地の奥に、「進徳の森」があります。本堂裏手の山道を歩くと、2本の大きなユリノキが目に入ってきます。2本とも樹高35m、胸高直径90cmと堂々とした風格を備えています（写真）。またユリノキの近くには中村家の墓所があり、墓の周囲は樹高25m、胸高直径40cmを超えるようなドイツウヒに囲まれています。このあたりの0.6haが進徳の森です。しかし



写真 進徳の森のユリノキ

中村弥六が植えたとされる、外国産樹木が現在も見られる所は、墓所を中心とした約0.2haの部分に限られているようです。そこで、この範囲の樹木を調べてみました。調査した範囲には図-2のように7種類34本の外国産の樹木と、これに混じてカヤやコナラ、ヒノキなどの在来の樹木が生育していました。資料によると中村弥六は、この地にマロニエやポプラも植えたとの記録がありますが、残念ながらこれらの樹木は見つかりませんでした。それでも表-1に見られるように、胸高直

表-1 外国産樹木の大径木

(胸高直径40cm以上)

樹種名	胸高直径 (cm)	樹高 (m)
ヒマラヤスギ	111.5	26.0
ユリノキ	92.0	35.0
ユリノキ	88.0	35.0
ヒマラヤスギ	79.5	27.5
ドイツトウヒ	56.0	25.0
ドイツトウヒ	55.8	28.0
ヨーロッパクロマツ	45.5	26.5
リギダマツ	44.2	23.5
ドイツトウヒ	42.5	22.5

径40cmを超えるヒマラヤスギなど9本の大径木が残り、多くが樹高25mを超えるまでに成長していました。また胸高直径15cm、樹高10m程度の細いストロブマツなども見られ、中村弥六が植えた木が生んだ次の世代を見ることが出来ました。

80年を越える年月に負けずに大きく成長した進徳の森は、外国の樹木の成長を知る一つのモデルとして、興味深いものと言えるのではないのでしょうか。

## 【参考文献】

日本林業技術協会編：林業先人伝、日本林業技術協会、P37 - 73, 1962

室谷正美：今日に生きる先人の遺産、全国林業改良普及協会、P203 - 220, 1978

(育林部 小山)

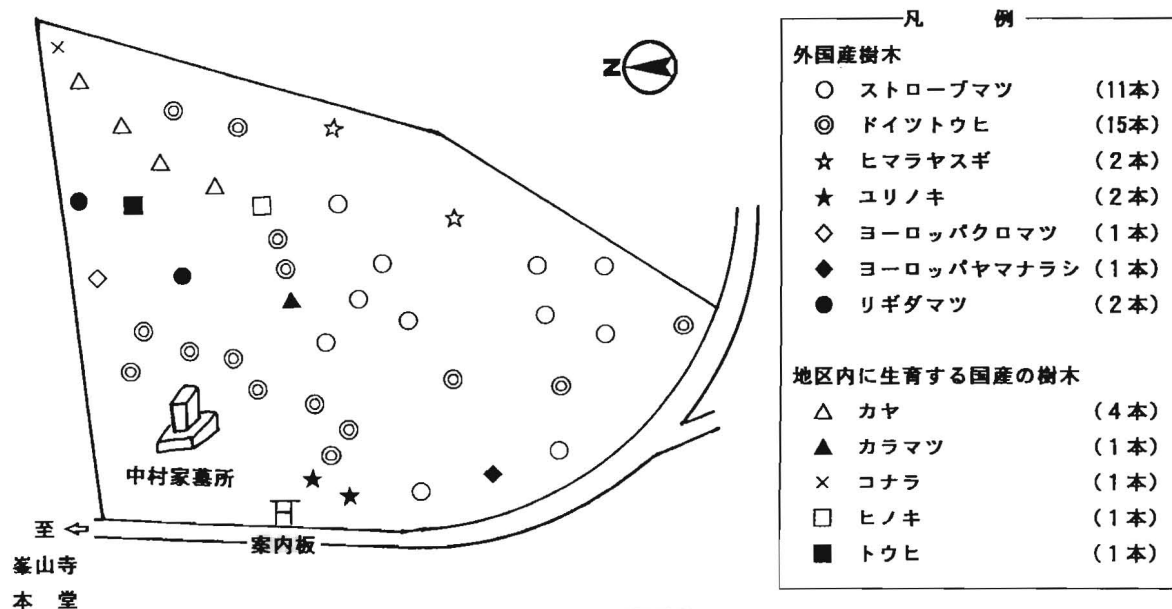


図-2 進徳の森で外国産樹木の見られる所